

大分教育事務所訪問②-60 (計133)

大分市立大道小学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「主体的に学び合い 共に高め合う 心豊かな大道っ子の育成」を達成するため、研修部、生活指導部、教務特活部の3部会毎に、教職員の取組指標を定め、子ども達がどのように成長したかの検証結果、検証の原因分析し、さらに改善策を3つ以内に絞り込む検証・改善を毎月行っています。加えて、新型コロナウイルス感染症対策についてはプロジェクトチームをつくり、初期対応や平常時の感染対策等を徹底することができています。さらに、働き方改革においても、見える化を行うことで職員の意識改革を行い、年々成果が現れています。

今後は、協議の際に確認した「(友達に話しを伝える力等の) 言語能力」のように、学校をあげて育成を目指す(教科横断的な)資質・能力を、より明確にされてみてはいかがでしょうか。このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることができ、そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながるとが期待されます。

※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 pp47-53 2教科等横断的な視点に立った資質・能力

授業から学ぶ

参観させて頂いたどの教室からも、子ども達の声が聞かれ、学びに向かう姿が印象的でした。特に4年1組外国語活動では、授業中何度も拍手がありそれぞれの良さを認め合っていました。また、5年1組理科では、ふりこの動きを実際に曲に合わせる体験を行うことでふりこの運動の規則性の理解を深めていました。また、本時のねらいも「追求対象、着眼点、到達点」が示されており、日常から意識されているのでしょう。

今後は指導案を作成する際、「振り返り」を教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」にして表記してみてもいかがでしょうか。そのことで、教師が考えた「振り返り」と子どもが実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善がより推進されると思われました。



NO.587 2021年12月 大分市立大道小学校

分かる・できる

まずは自分で考える。次に調べて根拠をもつ。そして、交流して新たな知識や考えを得る。だから、みんなが成長する。



NO.589 2021年12月 大分市立大道小学校

安心な教室

拍手には、すごいよ！私と同じだよ！頑張ったね！という、メッセージがあるね。



NO.590 2021年12月 大分市立大道小学校

調整力

自分の音をきちんと整える。みんなの音を聞き調える。だから、調整というのだね。



NO.588 2021年12月 大分市立大道小学校

仲良く活動

自分の考えを伝える時は、相手のことを考える。お互いが相手軸だからわかり合える。